



横田小だより

令和5年11月23日発行

高岡市立横田小学校



横田小HP

研 精 魂

- ・誠実なれ
- ・親切なれ
- ・勇気を起こせ

「憧れ」は、向上心の原動力

教務主任 佐藤 秀哉

向上心をもって成長して行ってほしい。

これは、子供と接するときに、誰もがもつ願いではないでしょうか。それでは、向上心の原動力はどこからくるのか。私は、その一つの答えは、他者への「憧れ」であると考えています。

今月の中旬から、横田小学校では、全校で体力づくりの時間や体育の時間に短縄跳びに取り組み始めました。そこには、向上心が育つ大きなチャンスがあります。毎年同じ「縄跳び検定カード」を使って、できた技とその回数によって色を塗れるマスが増えます。その合計点で級、そして段が認定される仕組みです。

「〇〇級になった！去年の自分を越えた！」「あと〇〇マスで上がれる！」と、上の級や段を目指してやる気に溢れた子供たちを見ることができます。そこで大切なのは、友達存在です。技や回数が向上する瞬間を互いに見合い、喜びを共有します。更に目を凝らしてみると、そこには他者への「憧れ」が向上心の原動力になっていることに気がきます。目の前で友達や教師の縄跳びを見て、「〇〇みたいにできるようになりたい！」と憧れ、夢中になる純粋な気持ちが向上心を生んでいるのです。そんな輝く瞳を見出すことができる、私にとっても幸せな瞬間です。



この時期になると、私自身が小学生時代に抱いた憧れを思い出します。1年生の時に、年度途中でI君という男の子が転入してきました。突然のように現れたI君は運動がとても上手でした。鉄棒やマットでは見たことのない技を次々と目の前で繰り広げます。そして短縄跳びも驚くべき技の連続。二重跳びは100回以上、二重あや跳び、交差二重跳び。後ろ二重跳び。後あや二重跳び。後ろ交差二重跳び。そして3年生の時には、三重跳びを6回連続でやってのけました。あまりに衝撃的で、私を含め、多くの友達は

彼に憧れました。そして「同じ学年だから、自分にもできるかもしれない・・・」と、一心不乱に、競うように短縄跳びにのめり込みました。気が付くと、この学年だけが異様に縄跳びの技能が高まっていました。

他者への「憧れ」から生まれる向上心は、あらゆる活動に波及します。インターネット上の無数にある動画から、憧れの存在を見つけることもあるでしょう。対象が何であれ、私たち大人は、その純粋な気持ちをつぶさず大切にすることが、向上心を育てる一助になると思います。目の前の子が何に興味をもっているのだろうか、心を寄せ、共に感動する心をもった大人でありたいと願っています。

図書委員会 たくさん読もう！「読書でビンゴ」

図書主任 太知美佐子
学校司書 林 彩乃

図書委員会では、「ラスト1年、まだ読んでいない図書室の本を読んでもらいたい」という思いから、「読書でビンゴ」を企画しました。様々なジャンルの本を読み、読書の幅を広げることができるように、読書ビンゴカードを配布しました。ビンゴ期間中は、普段よりも図書室を利用する子供が多く見られました。図書委員会の子供たちは、自分の当番以外の曜日でも進んで貸し出しを手伝ったり、低学年の子供に本の場所を教えたりと意欲的に活動し、「たくさん借りてくれた。企画してよかった」「貸し出しの仕事は、大変だったけれど楽しかった」と、満足していました。全校でビンゴになった子が37人いました。これを機に、多様なジャンルの本に親しみ、いろいろな本の魅力に触れ、読書の幅を広げてほしいと思います。



<子供たちの声>

- 普段借りてない本が読めて楽しかった。
- 見たことのなかった本を読んでもみると、おもしろいことが書いてあった。
- ビンゴカードに関係なく、これからも本をたくさん読みたい。



それぞれのベストを尽くした令和5年度持久走記録会

子供たちは、2学期に入ってから持久走記録会に向けて、体育や体力づくりの時間を利用して、練習を重ねてきました。中には、自主的に「少しでもタイムを縮めたい！」と朝の時間を利用して練習する子供たちもいました。

また、「みんなが少しでも走りやすいように」と全校で石拾いをしたり、「持久走がんばろう！弁当ランチ」と称して全校揃って屋上で給食弁当を食べながら目標を確認したりするなど、体力だけではなく記録会への気持ちも一つになるよう取り組みました。



ベストを目指して走るしっ子

記録会当日は、一人一人が、それぞれの目標に向かって頑張りました。「自己ベストのタイムを出せたよ！」「苦しかったけど楽しかった！」たくさんの保護者のみなさんの応援も後押しとなり、自分のもてる力の限りを尽くして走り切ったしっ子たちでした。



屋上での弁当ランチ